

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 16 日作成)

小委員会名	光環境設計ツール構築小委員会	主 査 名：明石 行生 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：古賀 靖子
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	2013 年：WG の構築と具体的な目標の設定 ・ WG を光環境設計ツール開発のタスクフォースとして位置づけ、初年度には研究テーマと目標を明確化。WG メンバー構成を決める。 2014 年：シンポジウムの開催 ・ 輝度設計ツールの開発、薄明視輝度に基づく道路の設計ツールの開発、明視性の評価ツールの開発、昼光設計ツールの開発を行っていく。 ・ 2 年度時点での進捗状況に応じたシンポジウムを開催する (12 月度)。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：明石行生 (福井大学) 幹事：加藤未佳 (金沢工業大学) 委員：秋月有紀 (富山大学)、井上容子 (奈良女子大学)、岩田朋子 (奈良女子大学)、岩田三千子 (摂南大学)、上谷芳昭 (京都大学) 大井尚行 (九州大学)、奥田紫乃 (同志社女子大学)、神農悠聖 (大手前大学)、佐藤隆二 鈴木広隆 (神戸大学)、土井正 (大阪市立大学)、中村芳樹 (東京工業大学大学院)、細淵勇人 (秋田大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	輝度設計ツール開発 WG 薄明視輝度に基づく道路照明設計ツール開発 WG 明視性評価ツール開発 WG 昼光設計ツール開発 WG	
2013 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	期首の計画通り、4 つの WG のそれぞれのメンバー構成を決めた。また、各 WG においては、メールによる情報交換とともに数回の会議を開催し、3 回の小委員会会議により WG の進捗を確認した。
委員会活動の問題点・課題	特段の問題点・課題はない。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本委員会は、今年から始まったので、主として WG とそのメンバー構成と活動計画を立てた。その結果、輝度設計ツール開発 WG、薄明視輝度に基づく道路照明設計ツール開発 WG、明視性評価ツール開発 WG、昼光設計ツール開発 WG を構成することができた。各 WG では、メール審議と会議により研究計画を立て、その達成のために具体的に始動した。これにより、初期の計画を達成した。ただし、期首に外部資金の取得の計画を立てることを計画したが、これについて具体的計画を立てることはできなかったため、来年度に繰り越すことにした。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。